

▶▶▶ 教育



カリフォルニア州の教育レベルは、ほかの州と比べると低いと言われているが、シリコンバレーに関してはそうとは言いきれない。シリコンバレーが発展した一つの要因として、この地区の人々の教育に対する考えかたが挙げられる。

義務教育と不動産価格

米国の義務教育は、小学校^{注1}から始まり、日本の高校3年生に相当する12年生まで続く。シリコンバレーや近郊の町には、高い学位を持った人たちの割合が高い。そのため教育熱心な家庭が多く、小学校でもレベルの高い学校が多い^{注2}。公立の学校では、入学試験による選別はせず、基本的には、住んでいる学区の学校に行くことになっている。そのため、良い学区の不動産価格は高い。良い学校に行く

ためには、学力ではなく親の経済力が必要だ。シリコンバレーの近郊では、新しい住宅がどんどん作られており、若いプロフェッショナルたちが集まっている。これらの学区にある学校は、まだそれほど高く評価されていないが、教育熱心な新しい居住者たちの影響により、小学校の低学年から徐々にレベルが上がってきている。このような学区では、特に学力アップに力を入れており、ほかの学校にはないカリキュラムを組んでいる^{注3}。いずれはこのような地区の不動産の価値も上がり、高校までレベルの高い学区になるに違いない。

短期大学

シリコンバレーがあるサンフランシスコ湾岸地区には、多くの短期大学(Community College)がある。高校レベルの学力があり、米国の市民権や永住権を持っていれば、だれでもこれらの短大で学ぶことができる。留学生^{注4}以外は毎日受講しなければならないわけではないので、学力の高い高校生がクラスに参加したり、社会人の受講も多い。シリコンバレーには、レベルの高い短大が多く^{注5}、コンピュータ関連のカリキュラムが充実している。高校を卒業するときに4年制大学入学を断念した学生たちが、短大から4年制の大学に編入するケースも多く、住民たちにセカンド・チャンスを与えてくれている。

コラム 列に並ぶ親たち

良い学区内に住んでいたとしても、子供たちが自動的に良い学校に行けるとは限らない。シリコンバレーの北東にあるFremont市のMission地区にも、カリフォルニア州屈指の学校がいくつかある。この町では、次々と新興住宅が作られたにもかかわらず、公立学校は新設されなかった。住民たちのほとんどは、学区の教育レベルの高さをあてに不動産を買ったのだが、「すべての子供が同学区の小学校には入れない」という話が広がり、パニックになった親たちが自分たちの子供を入学させるために願書受付日の何日も前から並び出すという事件が起こった。結局、公立学校の数は増えず、家から学校が見える距離に住んでいる子どもたちでさえバスでほかの学区に行かなければならなかった。

最近はおじによる抽選が行われるようになったため、親たちが校庭で列をつくる光景は見られなくなった。

注1：米国の小学校は、日本の幼稚園にある年長組に相当するKグレードから始まり、その次に1年生になる。

注2：カリフォルニア州で行われる学力テストの結果では、シリコンバレー近郊の学校が上位を占めている。

注3：学区に人を引き寄せるために作られたカリキュラムで、中国語やレベルの高い理数系のクラスなどがある。

注4：留学生は学生ビザのルールにより、週20時間および1学期12単位以上のクラスに出席しなければならない。

注5：Apple Computer社とゆかりの深いDeAnza Collegeのカリキュラムは充実しており、技術系のクラスのレベルも高い。

コラム ホーム・スクーリング

ホーム・スクーリングは、米国全土で静かなブームになっている。ホーム・スクーリングとは文字どおり家庭教育という意味だが、自宅で勉強することがメインではない。実際シリコンバレー地区にあるホーム・スクーラたちは、仲間どうしで連絡を取り合い、創造的な教育を行っている。

ホーム・スクーリングの推進派たちは、カスタマイズされたカリキュラムにより、各生徒が効率良く短時間で勉強できると主張している。また、学科別に教える必要がなく、「自然体の教育」とも言われている。最近、全米で行われる学力コンテス

トでホーム・スクーラの生徒の活躍が目立つようになり、名門の私立大学がホーム・スクーリングで学んだ少女少女を入学させるようになってきた。ホーム・スクーラの生徒は、団体生活になじみにくいという問題があると言われ、家庭で孤立した教育を行うと失敗してしまう。そのため、ホーム・スクーラどうしの集まりやコミュニケーションはもっとも大事である。インターネットによるコミュニケーションが容易になり、グループ活動も毎日行われるようになったことが、ホーム・スクーリングがポピュラになった理由の一つでもある。

4年制大学

シリコンバレーにおける教育機関の頂点は、Stanford University と University of California, Berkeley だ。

Stanford University は、1891年にカリフォルニア選出の上院議員スタンフォード氏によって建てられた私立大学である。「Stanford University なしでは、シリコンバレーは存在しなかった」と言われるほど、シリコンバレーの起源とゆかりが深い。この大学が貢献した技術も多く、Cisco Systems 社のルータ技術もこの大学で開発されたものと言われている。このほか、Hewlett-Packard 社や Sun Microsystems 社、Yahoo! 社などもこの大学の学生や卒業生たちによって創られた。

University of California, Berkeley の歴史は、1849年までさかのぼる。卒業生には、18人のノーベル賞受賞者がおり、そのほとんどが理数系である。また、CPU、半導体、アナログ回路など、各分野の第一人者と呼ばれる教授たちが多く在籍している。SPICE や Magic などの EDA ツールのほか、技術者たちが毎日使う UNIX もこの大学で開発された。

両大学のほかには California State University 系列の San Jose State University^{注6} や私立の Santa Clara University があり、シリコンバレーの技術教育を支えている。

社会人教育

シリコンバレーは、学びたい人にとってはいくらかでも機会が与えられるところだ。社会人が高校レベルのクラスを受けたいときやしごとで必要なトレーニングを受けたいと

きなどは、アダルト・スクールという公立の学校で教えてくれる。アダルト・スクールの中には、移民や難民たちに対して英語の授業を行うところもある。義務教育レベルの勉強をアダルト・スクールでやり直してから、前述の短大へ働きながら進むことができるのだから、何度でもやり直しがきくシステムであると言える。

高い教育を受けていても、学校に戻って勉強する人たちは少なくない。University of California, Berkeley や同 Santa Cruz では、Open University というカリキュラムが実施されており、ビジネス系や技術系を中心とした講義が行われている。Open University の難度は、本校とはかけ離れているが、修士号や MBA の取得に加算される単位もあり、シリコンバレーで働く人たちにも人気がある。シリコンバレーで長年働くエンジニアたちが、これらのクラスの講師になることもある。そのため、Open University では、実践と理論の両方が充実したクラスが珍しくない。

シリコンバレーでは、社会人が修士号を取得することも多く、大学院レベルのクラスが早朝や夜間に開かれている。人気のある大学院は Santa Clara University で、大学院生の多くは社会人だ。ある程度成績が良ければ学費は職場が出してくれるので、経済的にも楽である。大きな会社では、社内で大学院レベルの教育を実施しているところもあり、数年かけて修士号をとる社会人もいる。

しのはら・まさる

◆筆者プロフィール◆

篠原 秀。1988年に米国 University of California, Berkeley 校の工学部 (EECS) を卒業。シリコンバレーの複数の会社でシステム、チップおよびソフトウェア開発に従事。現在スタートアップ会社で技術メンバとして働いている。

注6：University of California には、Berkeley 校のほかに八つの分校がある。Los Angeles 校 (UCLA) もそのうちのひとつだ。California State University には、分校が23校もある。